

後援：(一社) 高知県工業会

昨年度に引き続き、非接触三次元形状測定装置の利用研修を実施しました。本装置は、製品形状のデジタルデータ化（リバースエンジニアリング）を可能とするものです。測定方法は、プロジェクタから測定物に縞模様を投影し、そのイメージを CCD カメラで撮影してデータ処理をすることで表面形状を得る方式を採用しています。このように光学的に計測するため、従来の三次元測定装置では、測定が困難な自由曲面や製品全体の計測が短時間で測定可能です。

研修内容

座学・実習

1. 装置の概要と測定の手順

装置の基本構成の説明とワンショットでの測定方法の説明と実習

2. 測定データのマッチング方法

複数ショットの撮影をした時のデータを繋ぎ合わせる方法の説明と実習

3. 円テーブルを使用した自動測定

円テーブルを使用し測定物を回転させながら自動測定する方法の説明と実習

4. 総合実習

製品全体の測定実習



研修の様子

参加者の声

今後「仕事にどのように活用できるか」の問いには、8名の方が「活用できる」との回答をいただきました。

研修概要

研修担当者 山本 浩、島本 悟
参加人数 10名

日程 7月30日（1日間）、2月19日（1日間）
場所 高知県工業技術センター



研修に使用した装置は競輪の補助を受けて導入しました。